

校地選定の結果報告

高校再編推進室

中野総合学科新校(仮称)の校地を選定するにあたり、「校地選定に係る検討項目」に則り、校地検討会議の議論を参考に県教育委員会にて下記のとおり検討した。

1 校地・校舎に係る環境

○検討項目(観点) ◇検討にあたっての考え方	検 討 結 果
<p>○学びを支える、学習環境の施設</p> <p>◇開設時の募集定員を想定した上で、学習空間・施設を確保することができるのかを検討する。また、定時制の校舎を全日制とは別に設置することが必要だと考える。</p>	<p>○新校の募集学級数を7～8学級程度と想定すると、両校の開設当時の学級数は中野立志館高校が7学級、中野西高校が8学級であり、どちらの校地でも教室等の空間を確保することは可能である。設置する選択科目等の詳細は今後検討していくことになるが、総合学科高校は普通教科に加え、工業、商業等の専門教科の学びを特徴としている。これらの学びを推進するにあたっては、中野立志館高校の既存の施設・設備を有効に活用していくことが望ましいと考える。</p> <p>○同様に、定時制での学びの空間を確保するためには、全日制とは別に校舎を設置する必要があることから、中野立志館高校の既存の定時制棟を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○敷地(校地)の広さ</p> <p>◇充実した施設を整備するには、敷地面積が広い校地が必要だと考える。</p>	<p>○建物敷地面積は、中野立志館高校が20,278m²、中野西高校が19,640m²であり、中野立志館高校に優位性があると考え。また、運動場敷地面積を含めた敷地面積合計は、中野立志館高校が50,575m²、中野西高校が57,764m²であり、中野西高校に優位性があると考え。</p>
<p>○部活動の活動場所の確保</p> <p>◇部活動等の活動場所が確保できる校地が必要だと考える。(不足する場合、第二グラウンド等の施設の活用可否)</p>	<p>○部活動の活動場所は、同一校地内外の違いはあるが、両校ともに体育館および野外施設がある。また、第二グラウンドや必要に応じて中野市多目的サッカー場を使用しており、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○駐車場施設の確保</p> <p>◇学校行事等で大勢の方が来校する際、校内の駐車場スペースや借用が可能な近隣の駐車場が必要だと考える。</p>	<p>○他校の駐車場の状況を見ても自校だけで大勢の来校者の駐車スペースを確保することは難しい状況にある。両校においても学校行事等で大勢が来校する際には、隣接する駐車スペースを借用しており、両校に大きな差はないと考える。</p>

2 通学環境

○検討項目(観点) ◇検討にあたっての考え方	検 討 結 果
<p>○駅からの距離</p> <p>◇各地から生徒が集まることも想定し、駅から徒歩通学ができる校地が必要だと考える。</p>	<p>○両校の最寄り駅である「信州中野駅」から中野立志館高校、中野西高校までの距離と徒歩での所要時間は、それぞれ650m(8分程度)、1100m(15分程度)であり、駅から徒歩通学ができるという点では校地として両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○通学時の安全性</p> <p>◇駅から学校間の通学時の安全が確保できる校地が必要だと考える。</p>	<p>○両校の最寄り駅である「信州中野駅」から両校までの通学路において、交通量の多い道路には歩道が設置されており、通学時の安全性は両校ともに確保されている。通学時の安全について両校に大きな差はないと考える。</p>

3 学習活動を支える教育環境

○検討項目（観点） ◇検討にあたっての考え方	検 討 結 果
○他の学校との交流の利便性 ◇他の学校との連携や交流がしやすい校地が必要だと考える。	○様々な校種の学校との連携が考えられる。中野立志館高校には隣接する中学校、移動距離が1km未満の小学校があるが、他の学校との連携はその仕方によるところが大きく、現段階では交流のしやすさについて優位性を判断することは困難である。
○地域との交流の利便性 ◇地域の施設や企業との連携、交流を想定し、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。	○様々な連携先が想定されるため、現段階では地域の施設や企業との連携、交流について優位性を判断することは困難である。
○隣接施設の有用性 ◇学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が必要だと考える。	○中野立志館高校については、隣接する施設として中野市役所と中野市民会館がある。中野市と連携・協働した取組や行事・式典での使用、交流スペースでの活動等の活用が期待できる。
○周辺の学習環境（自学、自習スペース） ◇放課後の学習のための自習スペース等へ、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。	○利用できる施設として中野市立図書館が考えられる。他地区の高校生を含め10名程度から多い時で定員一杯の30～40名が同図書館の学習スペースを利用している。両校と最寄り駅である「信州中野駅」の間に立地し、両校からの距離は同程度であり両校に大きな差はないと考える。

4 総 括

校地検討会議において、校地選定に係る基本方針として、現在の校地の使用を前提として検討することや、授業等の学びは一カ所の校地で行うことを原則とすること等を確認した。その後、各検討項目（観点）と検討にあたっての考え方について確定し、各検討項目について中野立志館高校と中野西高校の校地の比較、検討を行った。

中野立志館高校に優位性があると考えられる項目は「1校地・校舎に係る環境」の「敷地(校地)の広さ」の建物敷地面積、「学びを支える、学習環境の施設」、「3学習活動を支える教育環境」の「隣接施設の有用性」であり、中野西高校に優位性があると考えられる項目は「1校地・校舎に係る環境」の「敷地(校地)の広さ」の運動場敷地面積を含めた敷地面積であった。